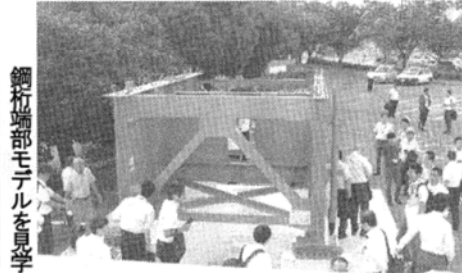


インフラミュージアム 岐阜大、設置記念式典を挙行

岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センターでは、「インフラミュージアム」設置記念式典を去る8月21日に岐阜大講堂で開催し、学内外から220人を越える技術者・研究者が参加し、盛大にミュージアムの設置を祝った。

岐阜大では、内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム(SIIP)」の一つ「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」で、「使いたくなるSIIP維持管理技術のMEネットワークによる実装(略称:岐阜大SIIP実装)」という研究課題で活動している。同ミュージアムは、この研究課題の助成を受けるとともに、文科省及び有志企業の協力を得て完成した。

この施設では、維持管理技術者を育成するために、プレストレストコンクリート(PC)橋、鋼橋、ト



鋼桁橋部モデルを見学



トンネルモデルを見学

ネル、盛土の建設過程が学べる構造物モデルを構築し、ME養成講座、大学院インフラマネジメントリーダー育成プログラム(平成29年度開始)における維持管理技術者の育成に役立てるとともに、SIIPのインフラ維持管理・更新・マネジメント技術で開発されている点検技術の検証に役立てるもの。構造物モデルでは、1950年代から現在までの数多くの構造技術を凝縮したモデルに組み入れて維持管理教育に配慮している。

記念式典は沢田センター長の挨拶で始まり、森脇学長や来賓の挨拶に続いて、沢田センター長からインフラミュージアムの概要が説明され、最後に國枝教授による協力企業紹介が行われた。

さらに、インフラミュージアムの除幕式と見学が行われた。除幕式では森脇学長、野々村工学部長、沢田センター長及び来賓数名による除幕が行われ、銘版が披露された。続いて、220名を超える来賓や関係者が、インフラミュージアムの構造物モデルを見学した。



除幕式



PC橋モデルを見学